

## 石巻赤十字病院 薬剤部支援

4月28日～5月5日 薬剤師・下石 和樹さん

震災直後から、石巻赤十字病院には全国から様々な救援物資が大量に送られてきた。薬剤も例外ではなかった。多種類の薬剤を成分や薬効で分類する傍ら、救護班で全国からやってきた医師の処方に答える。薬剤部も震災以来の激務が続いていた。日赤薬剤師会では全国から薬剤師を募りチームを編成して石巻へ送り込んだ。熊本からも下石和樹薬剤師が4月28日から5月5日まで派遣された。



下石和樹薬剤師

石巻赤十字病院の薬局の支援。疲れきっていた現地のスタッフの負担を軽くしようと、9人のチームで支援に入った。薬剤部支援チームは4、5人だったがゴールデンウィーク期間のため人数を増やした編成。メンバーは北海道や沖縄からも来ていた。

通常の業務に加え、石巻に入った救護班の要請を受けて薬剤の払い出し、それに支援で送られてきた薬剤の整理と在庫管理。全国から大型トラックで送られてくる薬剤は倉庫に置かれていた。成分や薬効が同じでも製薬メーカーが違えば名前も違う。医療機関によって使い慣れたメーカーや薬も違っており、それが石巻に集まってきた。

薬が不足するのは問題だが、多すぎるのも問題で、普段使っていない薬はどうしても使いにくくなる。いきおい使い慣れない薬は倉庫に置かれたままになる。しかも平常に戻ったときに有料で処方する薬としては使うことが出来ないため、廃棄するしかなくなる。それではせっかくの善意が無駄になってしまう。薬剤師チームは薬局業務の傍ら、その薬の名前と薬効リストを作り、すべての薬の期限を調べて在庫管理した。

また病院ごとに細かなルールがあり、慣れるのに1週間くらいかかってしまう。短期の派遣で石巻に来るチームのために業務マニュアルも作った。派遣されてくるのは薬剤のスキルのある人たちなので、薬局のマニュアルさえ分かれば大差はない。

朝8時から夜9時ごろまで仕事をし、午前1、2時までその日の仕事や翌日の打ち合わせなど話し合う毎日。当直用のシャワー室を使い、薬局の奥のリネン室にマットを敷いて眠った。食事もカップ麺などで、朝は一緒に食事をしたが昼と夜は交代で食事をとった。

下石さんは初動の3月14日から19日まで、熊本からの救護班で現地入りしている。そのときは救護チームとして巡回し、救護活動と活動を終えた後の区切りがあったが、薬剤支援では業務量が多く終わりが無い、1日中薬局にいて、食事するのも寝るのも薬局の中だから「毎日残業しているような感じだった」。救護班のときと違うのは宿泊が建物の中でマットがあったこと。帰熊前日の夜は熊本の救護班と同宿でしたが、食中毒に遭った同僚の介護に当たることになった。